



2013年4月1日

報道関係者各位

株式会社キャピタル・アイ

◎BEST DEALS OF 2012 を選出：
SB で関西電力/PO でJT

キャピタルアイ・ニュースは1日、キャピタル・アイ Awards“BEST DEALS OF 2012”を発表した。引受証券会社と機関投資家へのアンケートをもとに編集部審査を加え、2012年度の債券・株式発行市場における優良案件・発行体を選出した。

普通社債部門では、関西電力が電力セクターの本格的な復活の象徴となる案件として受賞。住宅金融支援機構の月次RMBSは、一旦崩れかけた市場の信頼を次の起債で取り戻した。中日本高速道路はトンネル事故後の起債における真摯な姿勢が称賛された。国内SBで富士フィルムホールディングス、サムライ債でノルデア・バンクがデビュー。INGバンクは東京プロボンド市場を切り開いた。ソフトバンクは国内SBで、武田薬品工業は外債でM&A資金を調達している。地方債では、全年限で主幹事方式に移行した大阪市、10年債でリーダーの貫禄を示した東京都の評価が高かった。

新規公開株式部門では、ベンチャー企業らしいビジネスモデルで将来性が期待されるユーグレナが受賞。日本たばこ産業の第4次売り出しは1兆円近くの震災復興財源をもたらして注目を集めた。アベノミクス効果によって活発となったJ-REITのファイナンスのなかでは、上質な資産運用方針が支持を受けた日本プロロジスリート投資法人と「第2世代」として新機軸を打ち出したGLP投資法人が受賞している。常連の産業ファンド投資法人は発行体としての評価を得ている。

以下が授賞リスト(〈 〉内は主幹事/株式のグローバル案件はグローバル・コーディネーター、日付は条件決定日/決議日)。

普通社債部門

BEST DEAL OF 2012

第 486 回 関西電力債 7 月 12 日 5 年 1000 億円

〈みずほ/三菱UFJモルガン・スタンレー〉

1000 億円のディールを成功させ、本格的な電力債の復活を市場に印象付けた。国債+63bp と投資家の目線に合致したプライシングによって、延べ 150 件が参加。15 年ぶりに社債管理者を設置して3メガバンクを揃え、購入単位は 1 億円から 100 万円に変更するなどスキーム面でも投資家への配慮を示した。発行体として震災後初。大飯原子力発電所の再稼働が決まったタイミングを捉えた起債だった。

BEST DEALS OF 2012 2 位

第 1 回 富士フィルムホールディングス債 11 月 27 日 5 年 600 億円

〈野村/SMBC日興/大和〉

第 2 回 富士フィルムホールディングス債 11 月 27 日 7 年 300 億円

〈SMBC日興/野村/大和〉

第 3 回 富士フィルムホールディングス債 11 月 27 日 10 年 400 億円

〈SMBC日興/野村/大和〉

順調に消化された総額 1300 億円の大型デビュー債。規模を考慮した丁寧な起債運営によって、事業債への警戒感が強かった市場の流れを好転させた。国債+1 ケタ台が珍しくなかったダブル A クラスで、全年限で+15bp を示し、タイト化一辺倒の流れに歯止めをかけた。

BEST DEALS OF 2012 3 位

第 41 回 ソフトバンク債 (リテール) 2 月 22 日 4 年 3000 億円

〈野村/大和/みずほ/SMBC日興/三菱UFJモルガン・スタンレー〉

第 42 回 ソフトバンク債 2 月 22 日 4 年 700 億円

〈みずほ/SMBC日興/大和/野村/三菱UFJモルガン・スタンレー/ドイツ〉

総額 3700 億円は当年度最大。昨年 10 月に米スプリント社買収(約 1 兆 5700 億円)を発表した後、大幅に拡大した既発債の水準をプライシングに反映させ、巨額の M&A に対して神経質になっていた投資家を幅広く取り込むことに成功した。当初はリテール債のみの計画だったが、機関投資家の要望に応じて、ホールセール債も追加するという柔軟な対応が好感された。

特別賞

| | | | |
|----------------|----------|------|--------|
| 第 17 回 ダイキン工業債 | 12 月 5 日 | 5 年 | 100 億円 |
| 第 18 回 ダイキン工業債 | 12 月 5 日 | 7 年 | 100 億円 |
| 第 19 回 ダイキン工業債 | 12 月 5 日 | 10 年 | 300 億円 |

〈大和/SMBC日興/みずほ〉

M&A 資金のリファイナンス案件。10 年債を中心に総額 500 億円を調達するという起債テーマを明確に打ち出した。見方の厳しい電機セクターであることも考慮した水準を示したことで円滑に消化され、後続に好影響を与えた。買収後の格付けアクションを経て準備に入った。

BEST ISSUER OF 2012

該当なし

財投機関債等部門

BEST DEALS OF 2012

| | | | |
|------------------|----------|-----|--------|
| 第 24 回 日本政策投資銀行債 | 4 月 10 日 | 3 年 | 500 億円 |
| 第 25 回 日本政策投資銀行債 | 4 月 10 日 | 5 年 | 600 億円 |

〈三菱UFJモルガン・スタンレー/みずほ/SMBC日興〉

期初に総額 1100 億円というまとまった額をフェアな水準で提供し、後続のベンチマークとなったディール。財投機関債の短中期ゾーンは、低い金利とタイトなスプレッドで投資家の購入意欲が減退していたが、その流れを変えた。

特別賞

| | | | |
|-----------------|---------|------|--------|
| 第 47 回 中日本高速道路債 | 3 月 7 日 | 5 年 | 500 億円 |
| 第 48 回 中日本高速道路債 | 3 月 7 日 | 10 年 | 200 億円 |

〈三菱UFJモルガン・スタンレー/シティグループ/野村/ゴールドマン・サックス〉

〈大和〉

トンネル天井板の落下事故後初の起債。発行体は、証券会社を伴わずに自ら 30 件程度の投資家を訪問し、主幹事はクレジット・コメントを配布するなど地ならしに時間をかけ、事故が信用力に影響しないことを周知してから臨んだ。とはいえワイド化を求めた投資家がいたことも事実。白紙状態でスプレッド目線を聞き、発行条件に反映させたことで順調に消化された。

BEST ISSUER OF 2012

住宅金融支援機構

実勢を踏まえた適正なプライシングを継続し、市場から揺るぎない信頼を得ている。15/20 年債を軸に毎月起債し、リピーター層の底堅い需要と地方投資家による年限の延伸ニーズを取り込んで、総額 5230 億円という規模を安定的に消化。超長期債市場の活性化にも貢献している。当年度は 30 年ゾーンでも積極的に起債し、総額 500 億円を供給した。

地方債等部門

BEST DEAL OF 2012

第 713 回 東京都債 11 月 15 日 10 年 300 億円

〈幹事:みずほコーポレート銀行/野村/みずほ銀行/ゴールドマン・サックス〉

スプレッドを維持したことで市場にポジティブ・サプライズを与え、地方債のリーダーとしての貫禄を改めて示した案件。11 月は、払込日相当の他銘柄がカーブ対比で前月比マイナス 0.5bp で先行したということになっていたので、都債もスライドするかと思われたが前月並みで条件決定し、投資家に歓迎された。

特別賞

第 1 回 兵庫県債 6 月 15 日 12 年 180 億円

〈野村/大和/東海東京/三菱UFJモルガン・スタンレー〉

地方債市場初めての年限。7 年と 15 年を含めて、非主要年限での起債を積極化している発行体の当年度における象徴的な案件。ベース金利が低いなか、より高い利回りを求めて 10 年債から年限を伸ばすニーズを巧みに捉え、予定の 100 億円から 180 億円に増額された。

BEST ISSUER OF 2012

大阪市

当年度から全ての年限で主幹事方式に移行し、他銘柄の水準にこだわることなく実勢に沿った条件決定を 9 本の起債で継続した。価格に対する信頼性を高めたことで、購入層の拡大と評価の向上が進んでいる。年間 100 件以上の投資家を訪問し、改善が進む財政状況を説明するなど IR 活動にも熱心。

サムライ債部門

BEST DEALS OF 2012

| | | | |
|-------------------|---------|------|--------|
| 第 1 回 ノルデア・バンク債 | 6 月 7 日 | 3 年 | 159 億円 |
| 第 2 回 ノルデア・バンク債 | 6 月 7 日 | 5 年 | 853 億円 |
| 第 3 回 ノルデア・バンク債 | 6 月 7 日 | 10 年 | 56 億円 |
| 変動第 1 回 ノルデア・バンク債 | 6 月 7 日 | 3 年 | 85 億円 |
| 変動第 2 回 ノルデア・バンク債 | 6 月 7 日 | 5 年 | 49 億円 |

〈メリルリンチ日本/みずほ/野村〉

欧州ネームへの警戒が継続するなかで、ダブル A 格を有する北欧最大手の商業銀行として登場し、クレジットの安定性が好感されて 120 件超の投資家が出動する大型のデビューディールとなった。一旦起債を断念した 2011 年以降も投資家との会話を続け、入念に取り組んできた IR が実を結び、5 本で 1202 億円の需要を集めた。欧州の民間金融機関による初回債では金融危機後最大規模だった。

特別賞

| | | | | |
|--------|----------|----------|-----|--------|
| 第 13 回 | メキシコ合衆国債 | 5 月 31 日 | 3 年 | 500 億円 |
| 第 14 回 | メキシコ合衆国債 | 5 月 31 日 | 5 年 | 300 億円 |

〈シティグループ/三菱UFJモルガン・スタンレー/野村/SMBC日興〉

単独クレジットでは 12 年ぶりの復帰を果たした。エマージング物の起債を再開させた案件としての意義が大きい。ドル債市場のスプレッドにこだわらず、サムライ債市場における自身の“立ち位置”を踏まえたプライシングが好感され、2 本で 800 億円の大型ディールを実現した。2009 年から 2010 年にかけての起債で保証体だった国際協力銀行が今度は投資家として参加したことも案件のハイライトの一つとなった。

BEST ISSUER OF 2012

ラボバンク

3 年連続でベストイシューアー。サムライ債市場の牽引役を務め、上期と下期の 2 回で総額 2818 億円を供給した。5 月は、ギリシャ不安などでセンチメントが悪化するなか、民間金融機関として年度で初めて登場し、高い信用力を武器に 2008 年のデビュー債以来となる規模の起債を実現。その後続く欧州ネームの呼び水となった。さらに、10 月には夏以降の世界的なタイトニングをプライシングに反映させ、前回債からの大幅なタイト化を実現するとともに、市場の目線修正という役割を果たした。5 本で 1618 億円は自身および当年度のサムライ債で最大規模となった。

証券化部門

BEST DEAL OF 2012

| | | | | |
|--------|-----------|----------|------|---------|
| 第 69 回 | 住宅金融支援機構債 | 1 月 24 日 | 35 年 | 1849 億円 |
|--------|-----------|----------|------|---------|

〈SMBC日興/野村/メリルリンチ日本〉

月次債を立て直しワイド化の継続を阻止した。直前の第 68 回債が大幅なワイドニングと日程変更などで信頼性が低下した後の起債。年度当初から進んだタイトニングによって、購入を見送っていた投資家の目線を確認し、価格に反映させるとともに購入層を再構築。超過需要に導いた。

BEST ISSUER OF 2012

該当なし

外債部門

BEST DEALS OF 2012

| | | | |
|-----------------|------|-------|-------|
| 武田薬品工業 グローバルドル債 | 7月9日 | 2年8ヵ月 | 15億ドル |
| 武田薬品工業 グローバルドル債 | 7月9日 | 4年8ヵ月 | 15億ドル |

〈野村/JPモルガン・チェース/バンクオブアメリカ・メリルリンチ/シティグループ/モルガン・スタンレー〉

日本を代表する製薬会社という希少性に加え、安定した財務状況や高い信用力が評価され、70億ドル近い需要が積み上がった。総額30億ドルは本邦の一般事業会社では過去最大。ベシススワップの環境も最大限活用し、国内対比で有利なコストを実現した。ナイコメッド社(スイス)の買収に要した短期借入金の返済に充てる起債で、2012年3月の国内SBに続くM&Aファイナンスだった。

BEST DEAL OF 2012

| | | | |
|-------------------|--------|-----------|-------|
| 日本生命保険 劣後グローバルドル債 | 10月11日 | 30年(NC10) | 20億ドル |
|-------------------|--------|-----------|-------|

〈JPモルガン・チェース/シティグループ〉

相互会社初の劣後債で、“日本最強生保”の人気を知らしめたディール。世界的に高格付けかつ高クーポン物へのニーズが強まる状況で投資家を引きつけ、最大270億ドルの需要を喚起した。当初のガイダンスから100bpもタイトなところで決着したという点でも市場にインパクトを与えた。

BEST ISSUER OF 2012

地方公共団体金融機構

年度2回の起債ではいずれも10億ドルというベンチマークサイズを発行。初の非政府保証外債となった9月のディールを成功裏に終え、1月は、年明け後の起債ラッシュや金利上昇でスプレッドがワイド化したうえ、“アベノミクス”による日本物への警戒感が強まるなかでの登場だった。こうした状況で実勢を5bp前後上回る水準を示し、超過需要を創出。非政保債でも“JFM”の強さを示すと同時に、市場に厚みをもたらした。3月には初の個人向け売出外債となる豪ドル債を発行した。

特別賞 (プロボンド市場)

| | | | |
|--------------------|--------|----|--------|
| 第1回 INGバンク債 | 4月10日 | 2年 | 507億円 |
| 〈バークレイズ/野村/SMBC日興〉 | | | |
| 第2回 INGバンク債 | 12月13日 | 3年 | 1645億円 |
| 変動第1回 INGバンク債 | 12月13日 | 3年 | 114億円 |

〈バークレイズ/みずほ/野村〉

第1回債は東京プロボンド市場で初めて発行された案件で、12月の2度目には総額1759億円の起債を実現。この2本立て債は、サムライ債の当年度最大額を超え、欧州の金融機関として過去最大の円債でもあった。今のところ唯一の発行体としてプロボンド市場を切り開き、今後の発展に道筋を付けた。

新規公開株式 公募・売出部門

BEST DEAL OF 2012

ユーグレナ 12月20日上場 公募・売出：55万500株 9億3585万円
〈SMBC日興〉

世界初のミドリムシ屋外大量培養技術を確立した東京大学発のバイオテクノロジー企業。ベンチャーらしい独創的な事業内容と黒字経営という安定性を併せ持ち、ブックビルディングでは個人、機関投資家ともに幅広い需要を集めた。株価は3月末時点で公開価格の約10倍に達し、当年度のIPOで上昇率トップとなっている。

BEST ISSUER OF 2012

該当なし

既公開株式 公募・売出部門

BEST DEAL OF 2012

日本たばこ産業 2月25日 売出：2億5326万1800株 7468億6904万円
〈大和／ゴールドマン・サックス〉

当年度最大のグローバル・オフリング。ローンチ後の株価が高値圏で推移するなか、海外投資家を主軸に、開拓余地のある個人投資家の需要を積み上げ、東日本大震災の復興財源となる売却益の最大化を実現した。自己株取得(2500億円)と組み合わせたスキームも投資家に好評だった。カラー資料の配布やシ団に対する営業推進支援ミーティングなど積極的に丁寧な啓蒙活動を行った発行体と、100社以上にのぼるオールジャパン体制の販売団をまとめたグローバル・コーディネーターの技量も評価された。

BEST DEAL OF 2012 2位

ジェイアイエヌ 7月24日 公募・売出：350万株 56億6300万円
〈みずほ〉

業績の上方修正と増配した直後の、成長期待の高まっているタイミングで登場。国内500店舗体制の実現に向けた明確な資金使途が個人を中心とした投資家の人気を集めた。ファイナンス後も株価は上昇し、足元では募集価格の3倍を付けている。発行体はパソコン用メガネの「JINS PC」などヒット商品を連発する「JINS」のメガネブランドで知られる。

BEST ISSUER OF 2012

該当なし

不動産投資信託証券部門

BEST DEAL OF 2012

日本プロロジスリート投資法人 2月14日上場 公募：18万2350口 1002億9250万円
〈モルガン・スタンレーMUFG／SMBC日興〉

上場時の運用資産および優先交渉権を確保している物件は、いずれも米プロロジス・グループが開発したAクラスの主要資産であり、ポートフォリオのグレードの高さが強い支持を得た。テナントの誘致を含むグローバルの展開力も一歩抜きんでており、マーケットの後押しを受けながら多くの投資家を動員。市場の活性化に貢献した。

特別賞

GLP投資法人 12月21日上場 公募：174万7100口 1056億9955万円
〈シティグループ/ゴールドマン・サックス・インターナショナル/野村〉

「リート第二世代」の創造を目指し、様々な試みに取り組んだ。その筆頭は、リートでは初となる利益超過分配金制度の導入。物流系リートである特徴を活かした革新性に富んだ案件。マーケットが勢いづく以前の新規上場であり、成功させるための施策に慎重を期し、パーチェスオプションを盛り込むなどの工夫もみられた。

BEST ISSUER OF 2012

産業ファンド投資法人

成長性を追求する独自の運用手法で、他を圧倒する存在感を示した。従来の提案型手法に加え、PRE (Public Real Estate)を含む成長戦略が高く評価されるとともに、「未開の地を開拓するリート」としてのポジションを確立した。常に投資家の存在を意識し、継続してグローバル・オファリングを実施している。

転換社債型新株予約権付社債部門

BEST DEAL OF 2012

エービーシー・マート ユーロ円CB 1月17日 5年 330億円
〈バークレイズ・バンク〉

日本株市場の上昇を捉えた絶好のタイミングで起債。本邦銘柄の品薄感が強まるなか、国内外の新店舗展開という前向きなエクイティ・ストーリーで、投資家需要の積み上げに成功した。ヒストリカル・ボラティリティの低い小売セクターながら、27.98%の高プレミアムでプライシング。CBの発行環境が好転していることを示し、後続に道を開いた。

BEST ISSUER OF 2012

該当なし

■キャピタル・アイ Awards とは:

当年度の資本市場でなされたファイナンスのなかで最も優れた案件は何か、発行体は誰か、普通社債、財投機関債、地方債、サムライ債、外債(日本企業による海外発行債)、証券化、新規公開株式、既公開株式、不動産投資信託証券(J-REIT)、転換社債型新株予約権付社債(CB)の各部門にわたって引受証券会社と機関投資家へアンケートを実施。回答をもとに、市場に円滑に受け入れられたか、市場にとって意義があったか、市場の発展や活性化に資するかなどの観点で編集部が選出し、表彰する。

◆株式会社キャピタル・アイについて

代表者:代表取締役 高田 一子

所在地:東京都千代田区九段北 1-12-3 井門九段北ビル 4 階

設立:2006 年 7 月

資本金:8 千万円

主な事業の内容:金融市場に関するオンライン情報サービス

金融専門誌や関連書籍の製作・発行

【債券・株式資本市場のプロフェッショナル向けリアルタイム情報サービス「キャピタルアイ・ニュース」を提供しています。債券分野では普通社債、財投機関債、政府保証債など債券発行市場を幅広くカバーし、一般債セカンダリー市場や CDS 市場、CP 市場などのニュースも配信しています。株式分野では株式、不動産投資信託証券、転換社債型新株予約権付社債のほか、M&A 関連や貸株の市場動向などを報道しています。】

ホームページ:<http://c-eye.ne.jp/>

【本件に関するお問い合わせ先】

株式会社キャピタル・アイ

編集部:菊地健之 03-6826-4721